



 **AUCNET**

株式会社 オークネット

株主通信 第10期 中間報告書

2017年1月1日～6月30日

証券コード 3964

さらなる成長を目指して 本物のサービスを追求して まいります



代表取締役社長 藤崎 清孝

当社は、2017年3月29日に東京証券取引所市場第一部に上場いたしました。
これもひとえに株主の皆さま、当社員の皆さま、関係者の皆さまのご支援、ご高配の賜物と心より御礼申し上げます。
ここに2017年12月期第2四半期連結累計期間(2017年1月1日～6月30日)の業績と事業概況についてご報告いたします。

オークネットは東京証券取引所市場第一部に上場されました。 将来への意気込みをお聞かせください。

当社は、1985年のインターネットがまだ存在しない時代に、当時の最先端だった衛星通信技術を駆使して「中古車TVオークション」をスタートさせました。その後、オークション会場を持たず「情報だけ」でオークションを行う独自のオンライン流通プラットフォームを構築。さらに、安心して取引ができるよう検査・検品体制を強化し、運営ノウハウを確立することで着実に成長を遂げてまいりました。2008年にMBO(マネジメントバイアウト)により株式を非公開とした後は、様々な商材に対応可能なオンライン流通プラットフォームを活かし、事業ポートフォリオの多様化と経営体制のさらなる

拡充に努め、将来の業容拡大を見据えた事業基盤の整備に注力しました。そして本年3月、東証一部へ再上場を果たし、国内外で業容拡大のスピードを加速する新たな成長ステージに踏み出しています。

当社は32年の歴史の中で培ってきた独自のビジネスモデルを活かして、社会に革新的な流通ソリューションを提供し、次代の流通の在り方を幅広く提案してまいります。株主の皆さまには当社の事業と戦略にご理解をいただき、末永くご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

2017年12月期第2四半期連結累計期間の経営環境と連結業績をどのように評価・分析していますか。

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高10,029百万円、営業利益1,874百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益1,047百万円となりました。デジタルプロダクツ事業において旺盛な買替需要による影響を受けた前年同期の中古スマートフォンの流通量を確保するには至りませんでした

が、四輪事業において復調の兆しが見られたことで、前年同期とほぼ同じレベルの売上・利益が確保できたことは大きな成果であったと受け止めています。とくに四輪事業の中古車TVオークションでは、市場ニーズの高い年式が新しく走行距離の短い中古車の出品獲得に努めた結果、成約台数・成

約率が向上しました。

今後の事業環境につきましては、四輪事業が引き続き堅調に推移すると思われることに加え、第2四半期まではやや低調であったデジタルプロダクツ事業も、第4四半期に人気

機種の新発売に伴う中古スマートフォンの流通増加が見込まれることから、2017年12月期通期では期初の業績目標を達成できる見通しです。

今後のオークネットグループの歩むべき姿と 中長期の成長戦略をお聞かせください。

当社グループは、これまで「運営ノウハウ」「情報の信頼性」「最適なシステム」の三要素を基に事業を展開することで、信頼ある会員制ネットワークを形成し安定的で持続的な流通を実現してまいりました。さらに、①ITオークション・流通ビジネス、②検査・評価ビジネス、③業界ネットワークビジネス、④フィナンシャルビジネス、⑤BPOサポートビジネス、⑥ITプラットフォーム提供ビジネスという6つのビジネスソリューションを提供してまいりました。これらビジネスを一貫したサービスとして提供できる独自のビジネスモデルは、当社グループの特徴であり強みです。

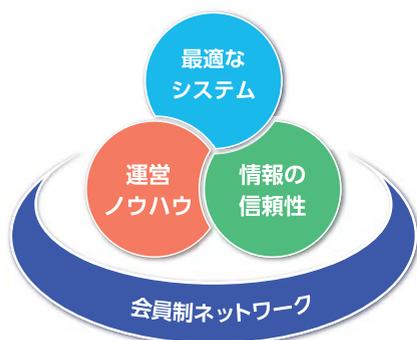
当社グループはこれからも情報流通サービスの次代の在り方を創造し、社会に広く提案していく会社で在り続けたいと考えています。このビジョンを実現するための取り組みのひとつとして、本年1月に商品サービス戦略室を新設し、続く5月には流通改革推進室を設置しました。今後は両組

織を通じて、より効率的な流通を追求し、優位性をさらに進化させてまいります。

中長期の展望については、既存事業の強化・拡充の他にふたつのベクトル(方向性)を想定しています。ひとつはグローバル展開です。中国やシンガポール、マレーシアなどのアジア地域をターゲットに海外展開を図るとともに、オンライン流通プラットフォームを活用し、グローバル市場におけるプレゼンスを高めていく計画です。

もうひとつのベクトルは新領域の開拓です。日本では昨今、商品ライフサイクルの短縮化を背景に、メーカーや販売店が抱える余剰在庫が大きな問題になっています。当社は「リ・マーケティング」と呼ぶ画期的な手法で、この課題に的確なソリューションを提供することにより、わが国の流通ビジネスに新しい風を吹き込みたいと考えています。

■ オークネットのビジネスモデル



ITオークション・流通ビジネス

幅広い分野でITを活用したオークション流通サービスを提供

検査・評価ビジネス

流通に関わる検査・検品商品の評価・査定サービスを提供

業界ネットワークビジネス

リアルタイムオークション中継落札代行サービスを提供

フィナンシャルビジネス

金融・保証のサポートサービスを提供

BPOサポートビジネス

事業アウトソーシングコンサルティングサービスを提供

ITプラットフォーム提供ビジネス

最適なシステムによるITプラットフォームを提供

最後に、利益還元方針を含め、株主の皆さまへのメッセージをお願いします。

当社では、株主の皆さまへの利益還元を経営における最重要課題のひとつと位置づけています。将来の事業展開と設備投資の源泉となる内部留保の充実に留意しつつ、連結配当性向30%を目安に安定的な配当を行うことを基本方針としています。この方針に基づき、当期の中間配当は1株当たり13円(年間26円の予定)とさせていただきます。

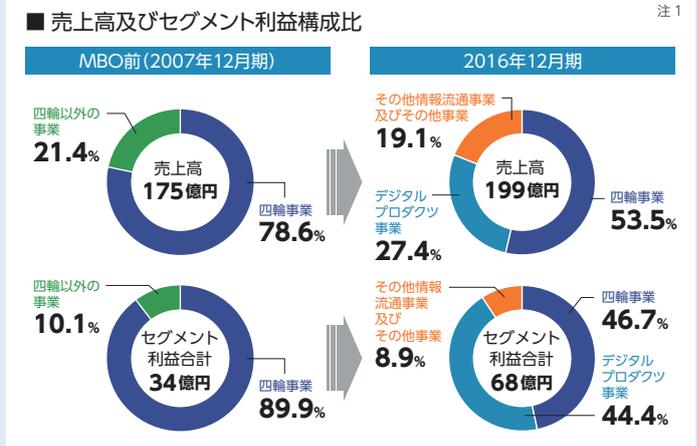
当社はこれからも、各事業間、各グループ会社間でノウハウやシステムの共有化を図ることで事業推進体制の一層の高度化を推し進め、持続的な成長と株主価値の向上を目指してまいります。上場企業として新たな成長へ歩み始めたオークネットのこれからの、どうぞご期待ください。

構造変革により、強固で多様な事業ポートフォリオを構築、 成長基盤を確立し、新たな挑戦に挑みます。

▼ オークネットの変革

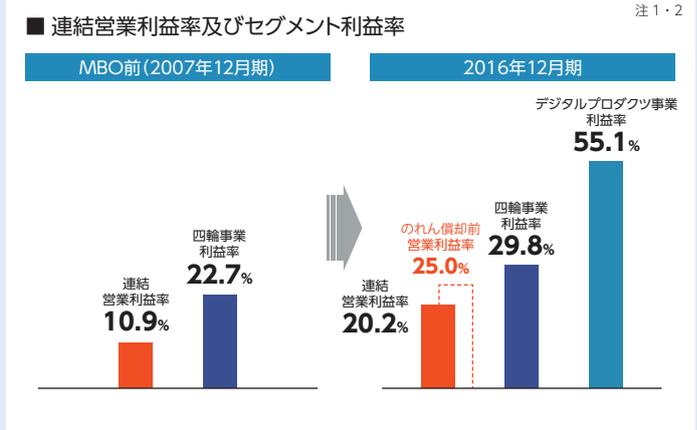
強固で多様な事業ポートフォリオの構築

当社はこれまで積極的な新規商材の開拓を通じて収益源の多様化を進めてきました。MBO以前は、中古車TVオークションを主体とする四輪事業が収益の大半を占めていましたが、現在では、中古バイク、花き(切花・鉢物)、ブランド品、中古デジタル機器、中古医療機器など幅広い分野をカバーする多様な事業ポートフォリオを構築。異なる市場特性を有する各商材が互いに補完し合うことで、安定した収益を生み出しています。当社はこれら既存事業の強化を図ると同時に、新たな領域にも果敢にチャレンジし、情報流通サービスの可能性を拓けていきます。



持続的な利益成長を目指す

2008年のMBOから2017年の再上場まで、当社は来たるべき次の成長に備えて事業基盤の整備・拡充など構造改革に力を注ぎました。その結果、各事業の収益性は着実に向上し、MBO前の2007年12月期に10.9%であった連結営業利益率は、2016年12月期に20.2%まで向上しました(右図参照)。また利益面も2014年12月期から2016年12月期の3年間で、経常利益は32億円から41億円で、親会社株主に帰属する当期純利益は12億円から21億円で拡大しています。当社は今後も、独自のビジネスモデルにさらに磨きをかけ、持続的な利益成長を目指してまいります。



注1：セグメント利益は、セグメント間取引消去後の数値であり、かつセグメントに帰属しない費用及びのれん償却費などを除く数値。利益率はこれらの数値を基に算出しております。
注2：連結営業利益率は、のれん償却後の数値に基づき算出しております。

▼ 成長戦略

四輪事業

成約率の高い良質な中古車の獲得を強化

- バリューアップセンター**
オークション出品車の検査・加修のための集積ヤードの活用(全国7カ所)
- 冠オークション**
大手ディーラーやメーカーインポーターなどからの出品を強化
- さきどりオークション**
リース会社やレンタカー会社との提携を強化し、リースアップ車両の出品を獲得
- 車両検査サービスの拡大**
大手車両情報誌の車両検査請負

デジタルプロダクツ事業

積極的な海外展開による流通量の拡大

- 中古スマートフォンの流通拡大**
アジア・EU・米国など全世界23カ国に中古スマートフォンなどを流通
- 中国における下取り流通事業**
中国における中古スマートフォン下取り流通事業をトライアル推進



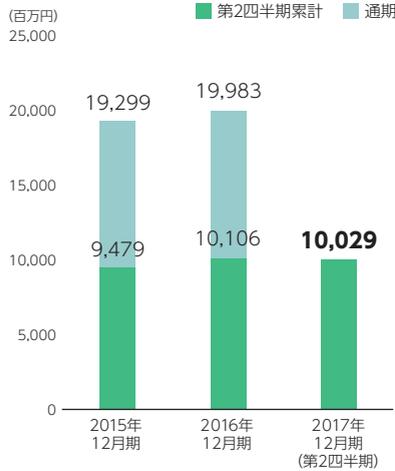
その他情報流通事業

ブランドオークションの活性化 海外展開

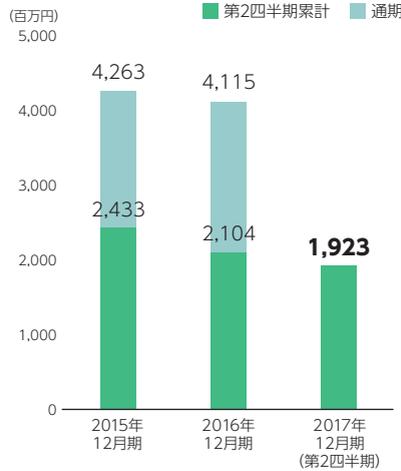
- 会員数の増加・全国シェアの拡大**
既存買取FC加盟店の囲い込みなどによる会員数の増加及び全国シェアの拡大
- 海外流通展開**
香港バイヤーへのブランド品流通
さらに、シンガポールを核として東南アジアへ向けた流通を促進



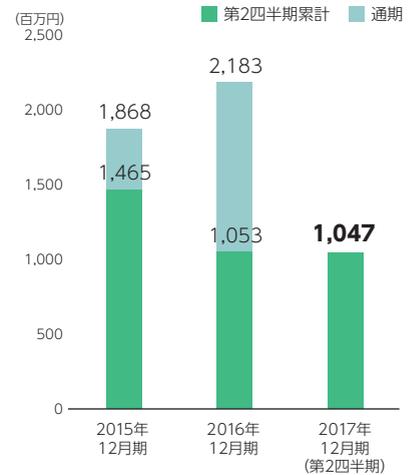
売上高



経常利益



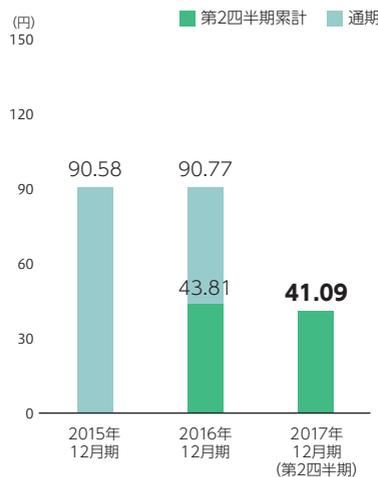
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



純資産/自己資本比率



1株当たり四半期(当期)純利益



注：当社は、2015年7月29日付で普通株式1株につき10株の株式分割を、2016年7月31日付で普通株式1株につき20株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、2015年12月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期(当期)純利益」を算定した数値を記載しております。

▼ 事業セグメント別情報

■ セグメント別売上高構成比



四輪事業

当事業と関連の深い自動車市場向の好転に加え、中古車TVオークションは、ディーラー系、レンタル・リース系、大手買取店などをターゲットとした出品誘致が奏功したことにより、成約率が上昇しました。車両検査サービスは、現車オークション会場や大手中古車情報誌からの受託検査台数が増加しました。この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は5,691百万円（前年同期比5.7%増）、営業利益は1,727百万円（同5.9%増）となりました。

デジタルプロダクツ事業

旺盛な買替需要により、海外パイヤーの新規獲得や中古スマートフォンの流通量が順調に推移する中で、流通台数を確保するための各種施策が功を奏し、取扱高は前年同期を上回る結果で推移しました。しかしながら、流通する主要スマートフォン端末が次世代型へと高額遷移したことや良質な端末が多く流通したため、取扱手数料率は減少しました。この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,362百万円（前年同期比13.7%減）、営業利益は1,285百万円（同14.9%減）となりました。

その他情報流通事業

中古バイクは、大手会員や地方都市を中心とした会員を対象に出品誘致を強化しました。花き（切花・鉢物）は、会員顧客のニーズに合わせた物流サービスの強化に取り組みました。ブランド品は、FC加盟店をターゲットとした参加促進策や取扱商材数の拡大を推進しました。この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,276百万円（前年同期比2.2%減）、営業利益は371百万円（同17.1%増）となりました。

INFORMATION

インフォメーション

会社概要

(2017年6月30日現在)

会社名 株式会社オークネット
英文社名 AUCNET INC.
創業 1985年6月29日
資本金 1,594百万円 (2017年4月25日現在)
連結従業員数 583名 (2017年1月31日現在)
上場区分 東京証券取引所市場第一部
本社所在地 東京都港区北青山二丁目5番8号 青山OMスクエア
代表電話 TEL: 03-6440-2500 FAX: 03-6440-2510
役員

代表取締役社長	藤崎 清孝	
取締役	藤野 千明 藤崎 慎一郎	永島 久直 田島 伸和
社外取締役	梅野 晴一郎	上西 郁夫
取締役(監査等委員)	佐々木 耕司	
社外取締役(監査等委員)	鮎川 眞昭	潮田 良三

株式情報

(2017年6月30日現在)

発行可能株式総数 110,000,000株
発行済株式総数 26,992,000株
株主数 1,990名
大株主

株主名	所有株式数(株)	所有株式数の割合
フレックスコーポレーション株式会社	11,548,800	42.79%
株式会社オリエントコーポレーション	2,592,000	9.60%
株式会社ナマイ・アセットマネジメント	2,000,000	7.41%
藤崎 慎一郎	931,000	3.45%
藤崎 真弘	915,000	3.39%
フレックス株式会社	844,800	3.13%
JP MORGAN CHASE BANK 380634 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	755,600	2.80%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE IEDU UCITS CLIENTS NON LENDING 15 PCT TREATY ACCOUNT (常任代理人 香港上海銀行東京支店カスタディ業務部)	662,800	2.46%
藤崎 清孝	501,600	1.86%
資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	493,000	1.83%

株主メモ

(2017年6月30日現在)

事業年度 1月1日から12月31日まで
定時株主総会 毎事業年度終了後3カ月以内
剰余金の配当の基準日 期末配当 毎年12月31日
中間配当 毎年 6月30日
単元株式数 100株
公告掲載方法 電子公告により行う。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。
公告掲載URL <http://ir.aucnet.co.jp/ja/announcement.html>
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

ウェブサイトのご紹介

株主・投資家の皆さまに対して、企業情報や財務情報をはじめとして、積極的に情報開示を行っております。ぜひご覧ください。



<http://www.aucnet.co.jp/>

詳しいIR情報は「投資家情報」をご覧ください。



<http://ir.aucnet.co.jp/ja/>



東京都港区北青山二丁目5番8号青山OMスクエア
<http://www.aucnet.co.jp/>